



栃木県生協連

2011年度2月定例報告

2012年2月17日 栃木県連 専務 鎌柄

(1) 1月活動日誌

日付	曜日	日誌
1月4日	水	宇都宮市賀詞交換会
1月5日	木	小山市賀詞交換会、連合栃木新春の集い
1月6日	金	県民生活部長へ挨拶
1月10日	火	地方消費者グループフォーラム実行委員会、協同組合ワーキングチーム会
1月11日	水	県連職域部会
1月13日	金	協同組合年キックオフイベント
1月17日	火	ふれあいお茶会、県連賀詞交歓会
1月18日	水	県連常務理事会
1月20日	金	国際協同組合まつり実務担当者会議、県子どもエコクラブ
1月22日	日	とちぎ避難者交流集会
1月26日	木	県栃木労生協定期検査、食の安全ネット世話人会
1月27日	金	消費者ネット・シンポジウム
1月31日	火	宇都宮市食育実行委員会・食の安全講演会・消費者展実行委員会

※東日本大震災を受けて、まとめは概況とします。

(2) 1月活動の概況

(宇都宮市内と福島県で避難されている方々のふれあいお茶会)

1月17日ふれあいコープの特養みどりで、福島県から宇都宮市内に避難されている方々に対する第5回目の「ふれあいお茶会」が開催された。参加者は大人24名、子ども2名だった。回を重ねるごとに増加若い方、お子さん連れの方など層も幅が広がっている。主催組織は、県連、ふれあいコープ、NPOウィズ。参加会員生協は、とちぎコープ、よつ葉生協。福島県発行のお知らせや、ぽ・ぽ・らからののお知らせにも掲載されはじめている。

(とちぎ暮らし応援会主催の「とちぎ避難者交流集会」)

1月22日清原の作新学院大学で開催された。参加者は、県内の避難者の方々約150名。協力スタッフはNPO、企業、行政関係者など138名。県内に避難されている2,627人の方々が繋がりあうことが目的で開催された。県連会員の関係では、とちぎコープ、ふれあいコープから参加があり、関係NPOでは、ウィズ、Vネット、市民工房等から参加がされた。今後に向け、福島県の元の行政区単位の集い、名簿づくりなどの提案がされた。

(福島県内の仮設への支援に向けて)

NPOとちぎVネットと市民工房とこの間協議を行ってきた。現在、福島県内で仮設に移っておられる方も多く、継続した支援が求められている。支援対象先は、白河市(約2

60戸)と矢吹町の仮設にVネットが支援を継続している。NPO市民工房では、いわきNPOセンターとの関係で広野町町民の方々が入居されている仮設を支援。いわき市内に4カ所(いわき市中央台、常磐湯本、四倉2ヶ所)の仮設があり、市民工房が11月から支援に入っているのは常磐湯本(約140世帯でカフェ+駄菓子屋を開催。湯本の話が聞かれた他の仮設の方から、四倉(2ヶ所)への支援要請の相談が入る。2月6日市民工房、事業団、県連・とちぎコープ・よつ葉生協、5名といわきのNPOと現地で協議予定。1回の人数は、車1~2台程度(5~6名)として、市民工房と連携して進める予定。

(EAST LOOP・ハートブローチの普及)

被災された方々が製作されているハートブローチを、現在、会員でも普及の準備が進められている。更に会長を中心に130ヶ普及をいただいている。

(県連賀詞交歓会)

1月17日(火)県連主催の「賀詞交歓会」が開催され、5行政機関、県議会、大学、報道機関、9関係団体、15会員、55名の参加をいただいた。宇都宮市の佐藤市長、高根沢町の高橋町長はじめ、震災と国際協同組合同年に関連したご挨拶をいただくことができた。2012年のスタートに向け、良い交流の機会となった。

(職域部会)

11日職域部会が開催され、2012年度の開催計画について意見を出し合い、次年度は4回の開催と新潟県連主催の6県連合同業態研修会への協力が話し合われた。

(食の安全課題の関連)

1月26日とちぎ食の安全ネットワーク世話人会が開催された。3月8日全体会では、食品における放射性物質の新基準と、生産者における除染等の取り組みについて学習会を検討することとした。

1月31日宇都宮市の食品安全講演会が開催され、放射性物質と食品の安全について、秋田大学滝澤行雄名誉教授、食肉の生食による食中毒の現状と課題について、岩手大学品川邦汎名誉教授の講演があった。例年より参加者は多かった。

(消費者課題の関連)

1月27日「消費者シンポジウム」が開催され、消費者庁地方協力課安藤広晃氏の報告、ネットワークからアンケートの結果報告を高岡幹事から、消費者トラブルアンケート結果報告を鈴木幹事から、ネットワーク参加団体の紹介を葛谷幹事から行い、パネル討論は、野木町真瀬町長、市貝町入野町長、那須町町長代理の常盤課長から、各町の消費者行政と町づくりの考え方、取り組みなどが報告され意見交換された。コーディネーターは杉原代表が行った。参加者は約150名、学生さんが過半数を占め、ネットワークからの参加者が約70名だった。参加者アンケートから見ると、パネル討論を通して「各町の現状や課題を知る機会になりました。」「自分の住んでいる市町にもっと関心を持って、生活していきたい。」「3町の課題や取り組みについてわかりやすいパネル討論でした。」「それぞれの町の様子が分かって面白かった。」など、積極的な評価が多く見られた。



(消費者シンポのパネラーとして参加された野木町長、市貝町長、那須町長代理の観光商工課長)

(国際協同組合同年・協同組合まつり)

1. 国際協同組合同年栃木県実行委員会・協同組合まつり実務担当者会議

1月20日国際協同組合同年栃木県実行委員「協同組合まつり実務担当者会議」第3回目が開催された。協同組合まつりの会場と日程を、6月23日(土)マロニエプラザとする案を確認し、出展集約の中間状況、経費予算、イベント会社の案について意見交換され、2月20日の実行委員会に提案していく事とした。

2. 県連内部の国際協同組合同年ワーキングチーム会

1月10日第5回ワーキングチーム会が開催され、参加会員報告では栃木保健医療生協宮本進組織責任者からの報告、「協同組合の役割と未来」第2章生活協同組合編について栃木県学校生協沼尾利行広報担当主任からの報告がされた。参加会員の震災への取り組み交流も行われた。

(3) 2～4月の課題

1. 2～4月部会・委員会活動の推進
2. 2～4月ネットワーク活動(食の安全ネット全体会、消費者ネット全体会)推進
3. 2012年国際協同組合同年栃木県実行委員会「協同組合まつり」の準備と推進
4. 県連総会に向けた諸準備と次年度計画の策定
5. 栃木県生協連内の国際協同組合同年ワーキングチームの活動推進
6. 震災被災地・被災者への支援・ボランティア派遣

くらし部会の2月と4月両拡大学習会の日程が決まりましたので、
事前のお知らせをさせていただきます。

2012年2月9日

各 位

栃木県生活協同組合連合会
会長理事 竹内 明子
(公 印 省 略)

2011年度第3回くらし部会拡大学習会のご案内

(仮題・放射性物質による海洋汚染の現状、漁業の現状について)

晩冬の候、2011年度3回目のくらし部会拡大学習会のご案内をさせていただきます。お声掛けの上ご参加よろしくお願ひ致します。

今回は、昨年3月11日の津波被害と原発事故を受けて、福島県水産試験場(いわき市小名浜)の五十嵐場長においでいただき、放射性物質による海洋汚染の現状、漁業の現状についてお話をいただく機会を得ることができました。

今回拡大学習会と致しますので、役職員・関係者含めてお声がけをいただければ幸いです。とちぎ食の安全ネットワークの関係団体にもご案内させていただきます。

1. 開催日時 2012年2月24日(金) 10:30~12:30 予定

2. 開催場所 栃木県労働者福祉センター・7階第1会議室

(〒320-0052 栃木県宇都宮市中戸祭町821 TEL028-624-6650)

※駐車場が狭い関係で、できるだけ乗合でのご参加をお願い致します。

3. 参加の呼びかけをいただきたい方々

とちぎコープ生協、よつ葉生協、生活クラブ生協の理事の皆さん

各生協の組合員組織の運営関係役員及び担当職員の皆さん

会員で参加を希望される皆さん、その他参加を希望される皆さん

今回は、とちぎ食の安全ネットワーク関係団体にもお声掛けしています。

4. 内 容

(拡大学習会)

テーマ 仮題「放射性物質による海洋汚染の現状と漁業の現状について」

講 師 福島県水産試験場 場長 五十嵐 敏 氏

5. 参加連絡のお願い

別紙にて、2月20日(月)迄にご連絡の程お願ひ致します。

(仮題) 「東電原発事故その時福島で何がおきたか? 今後の課題」 拡大学習会

- ・日程 4月10日(火) 10時~11時 定例くらし部会
11時~12時半 拡大学習会
- ・会場 とちぎ福祉プラザ・2階第1研修室
- ・講師 福島県生協連 熊谷 純一 会長理事
- ・テーマ (仮題) 「東電原発事故その時福島で何がおきたか? 今後の課題」
(チェルノブイリの視察を終えて)